



令和5年11月1日現在
世帯数 : 855世帯
人口 : 1513人
男 : 722人
女 : 791人

# 店主のつぎやき 街の新陳代謝

先日、「まつもと日和」という地域映画を鑑賞する機会があった。

ビデオカメラが登場する以前の昭和の半ば、必ずしも普及したとは言い難い8mmカメラにより、市民が撮影した松本の8mmフィルムを発掘し、つなぎ合わせた昭和の松本の記録映像中心の作品であった。先月まで美術館で企画展が開催されていた映画監督の山崎貴さんが、中学時代に初めて製作したというSF映画は長いこと所在不明であったのだが、市内で多くの8mmフィルムを発掘するこの過程で発見されたという。当時カメラもフィルムもそして映写機も高価であったから、所有する人も限られたが、新しもの好きで裕福だった商店主による記録も多く、路面電車が映り込む松本駅前や、松本城周辺にかけての中心市

街地の懐かしい映像を満喫することができた。

昭和40年前後の道路拡幅前の商店街は、どこも江戸時代のままの道幅で、今の中町通りと同じ幅なのだが、そこに普及し始めた自動車と多くの買い物客が混在するものだから、お祭りのような賑わい感にあふれている。町並みは小売店中心で飲食店はまだまだ少なく、外国人らしき人物は一人もいない。当時は土曜日にも学校の授業や金融機関の営業が昼まであって、祝日も今よりずっと少なかったから観光旅行の機会も少なく、観光客も観光客相手の商売も今ほど多くはなかった。

その後国鉄・JRの日本再発見のキャンペーンやマイカーの普及に伴い、長野県も松本も観光地化していった。令和の今となっては世界中から多くの観光客が訪れるまで

になったが、新博物館の開館や松本城周辺の整備により、この流れはますます加速していくだろう。

一方で平成以降、物販の主流は店舗販売からアマゾン・楽天、アスクルといった通信販売に移ってきたので、それに合わせて商店街の構成も、飲食店や観光関係、対人サーブیس店舗が中心となりつつある。小売店が飲食店を併設したり、食品販売の新規事業を始めたり、店構えはそのままでも、中身は進化している。

ほんの半世紀で、気が付かないうちに随分と変化したものである。生き残るのは、強いものでも賢いものでもない。変化に対応できるものだけ。松本の進化は止まらない。



昭和39年  
伊勢町通りと路面電車

Presented by  
視聴覚委員会

## まちかどフォト 第一地区の夏



セイジ・オザワ松本フェスティバル  
吹奏楽パレード

松本サマーフェスト

